

教育長報告（1）別添資料

明倫学区義務教育学校推進計画策定委員会報告

教育総務課・学校教育課

第16回 明倫学区義務教育学校推進計画策定委員会

期日：令和2年1月31日（金）

13：30～

会場：市役所 議員協議会室

次 第

1. 開 会

2. 委員長あいさつ

3. 報 告

(1) 各検討部会からの報告について

①教育課程検討部会

②施設整備検討部会

③校名・校章・校歌・制服等検討部会

4. 協 議

(1) 制服選定に係るプレゼンテーションの審査結果について

(2) ジャージ等選定に係るプレゼンテーションの審査結果について

(3) 校歌の制作について

(4) その他

5. その他

6. 閉 会

期日：令和2年 1月31日（金）
13：30～ 15：00
場所：市役所 議員協議会室

1 開会

2 委員長あいさつ

本日は、月末のお忙しいところご参集いただきありがとうございます。

さて、今年は驚くような小雪、暖冬で、私は冬に備えて除雪機のメンテナンスも十分にやっていたが、このような状況になってしまった。個人的には身体も懐も穏やかに過ごしているが、長期的に考えると心配な点が多々あるように思われる。1992年、平成2年から平成5年にかけて、同じように雪が降らない暖冬の時があった。その年は夏が冷夏になり、日本中がコメ不足に見舞われた。作柄指数も90で著しい不良ということだが、その時は日本全体が74であった。東北地方も本当にコメがとれない状況になっていた。最もひどかったのが岩手や青森や宮城で、このあたりは指数が30前後であった。日本全体でコメが不足して、「平成の米騒動」と言われた年だった。わたしと同じような年代の方は記憶にあるかと思うが、タイ米が緊急輸入されたのもこの年だった。給食にも大きな影響を被り、給食にもタイ米が出されたように記憶している。そんな1992年の冬よりも、今年はずっと降らない状況であるので、この夏のことを心配される。雪が降らずに夏が暑くならないと、経済的にも非常に落ち込みが激しくなる。消費税の導入で経済が落ち込んでいる状況の中で、さらに追い打ちをかけるような状況になるのではないかと心配している。ただ1つ、このような状況の中で、少しいいニュースだと思うのが、義務教育学校の建設である。スタートが若干遅れていたが、この雪がないことで少しスピードアップするというのを期待している。今日の報告にも、その点についてあるのではないかと考えている。

今日の内容は、制服・ジャージ・シューズ、校歌と盛りだくさんになっているが、皆さんの貴重な意見をお聞かせいただいて、いい決定になればと思っている。よろしく願います。

3 報告

(1) 各検討部会からの報告について

- ①教育課程検討部会
 - ②施設整備検討部会
 - ③校名・校章・校歌・制服等検討部会
- 事務局より報告—

質疑なし

4 協議

(1) 制服選定に係るプレゼンテーションの審査結果について

(事務局)

部会長からも報告があったが、内容について補足として説明をする。

制服についてのプレゼンテーションは、11月22日に市民プラザの小ホールにて実施した。参加者は20名であった。

プレゼンテーションの審査結果は、資料のとおりである。コメントについては、各審査員から審査の際にいただいたものを、そのまま記載したものである。特徴的なところとして、山形菅公は「よごれをはじく」「特支対象などバリエーションがよい」。弦巻は「アフターサービスが優れている」「現在、明倫中に納入している」。瀧本は「消臭が良い」「反射材がよい」とあるが、「ネクタイやリボンにエンジ色を使っている意図が分からない」という意見があった。藤井は、「ニットジャケットがストレッチ、軽さ、裏地が良い」とあるが、「アフターサービスが不安」という意見があった。

次に、審査員以外のアンケートの結果である。これは要項にも示したが、3校の児童生徒、教職員、保護者、地域の方々を対象にして、巡回展示も含めたアンケートである。調査期間、場所については資料のとおりである。アンケート結果の概要については、全体的に見ると価格以外の点では4点、5点の割合が50%を超えており、いずれの制服も高い評価となっている。得点率で見ると、瀧本が比較的高く、これは、児童生徒の割合が大きく影響している。中でも、デザインの評価が非常に高く、それがその他の項目にも影響していると考えられる。保護者、先生方、地域の方々をまとめたものは、4業者で目立った偏りはなかった。また、1点、2点と回答した割合は10%以下であり、業者間で目立った偏りは見られなかった。しかし、藤井のデザインについては、1点、2点の回答割合が20%を超え、他の3業者と比べると隔たりがあった。コメントについては、山形菅公の「ボタンやワッペンに『M』という文字が入っている」という点にあまり良い評価を得ていない。弦巻は、現在イメージカラーとして捉えられている「緑」を意識しているのがいい。瀧本は、「デザインが可愛い」。藤井は、「デザイン」の評価があまり良くない。

これらを踏まえ、部会長から説明があった通り、検討部会ではプレゼンテーションの採点結果と、参考としてアンケートの結果を組み合わせる検討をし、その結果、1つの業者に絞り込まず、4業者の順位をつけて、策定委員会に提案することを確認した。

検討部会の案として、第1候補「山形菅公」、第2候補「弦巻」、第3候補「藤井」、第4候補「瀧本」とした。この提案をもとに、策定委員会で1業者を選定していただきたい。

(委員長)

事務局からプレゼンテーションの審査結果、児童生徒のアンケート結果、保護者等のアンケート結果の説明があった。最終的に4業者を順位づけして、部会の検討結果として提案いただいた。

まず最初に、今の説明報告について質問はないか。

(委員)

18頁の「プレゼンテーション及びアンケートの得点率」の表について、これは各評価項目と総得点の点数をそれぞれの満点数で除したものと捉えてよろしいか。

(事務局)

そのとおりである。

(委員)

児童生徒、保護者等の得点率は、総得点に含まれていないということよろしいか。

(事務局)

その通りである。

(委員長)

他にいかがか。

質問がないようなので、部会から示された業者選定の第1候補から第4候補までの順位づけされた提案について、意見はないか。

それでは、特段意見はないようなので、部会から順位づけされて提案された第1候補の「山形菅公」を、策定委員会による制服業者として決定してもよろしいか。

(委員)

異議なし

(委員長)

なお、アンケートの中で制服の細かな点について要望があったようだが、それについては業者と話し合いをして変更していくことは可能か。

(事務局)

今後のスケジュールとしては、これから業者を選定し決定した旨の通知を出す。その後に、検討部会等の資料を基に、細かな点については業者の方に検討してもらうことは、部会長とも確認をしている。そこで、細かな部分を確定したのち、検討部会に報告承認をいただき、最終的に策定委員会に提案する。

(委員長)

詳細については、随時策定委員会で報告いただきたい。

(2) ジャージ等選定に係るプレゼンテーションの審査結果について

(事務局)

ジャージ等の選定についても部会長から説明があったが、資料に沿って詳細を説明する。これについては、ジャージとシューズを選定することになっている。

まず、ジャージについて説明をする。

ジャージの選定プレゼンテーションは、12月19日に市民プラザの小ホールで実施された。参加者は21名。

集計の結果は資料のとおり、各項目で最も得点率の高い業者を黄色で示している。

審査員のコメントについては、クラロンは「デザインがいい」という意見が多かった。紺色ベースだったので、「イメージカラーのグリーンがあってもいいのではないか」という意見も多少あった。児島は、グリーンベースであり、「明倫のイメージカラーを採用していたことが良い」という意見が多かった。「反射ワッペン」の評価もよかった。山形菅公は、今回初めてのデザインということで提案いただいた「サイドジップ」についての意見が多かった。

アンケートについても、制服と同様巡回展示を行い、児童生徒、教職員、保護者、地域の方々から合計438名から回答をいただいた。

全体的に、評価が3点から5点に集中し、極端に評価の低い回答はなかった。クラロンと児島の得点率が同率であり、山形菅公1社だけが低い評価となっている。児童生徒については、児島の評価が高かった。保護者・教職員、地域の方々においては、クラロンの評価が高く、特にデザインの5点を付けた割合が40%を超えている。詳細は、別紙のグラフを確認いただきたい。

コメントは個人的な意見で正反対なものもあるが、クラロンは「デザインが悪い」というイメージの意見がある一方で、「見た目がいい」という意見もあった。紺系のデザインであったので、「グリーン系の色だったらよかった」、「グリーンを入れてほしい」という意見もあった。児島は、「今の明倫に近い形でいい」という意見と、逆にそれが古いのではないかという意見もあった。ただ、グリーン系で提案いただいたので、アンケートにはグリーンが1番じっくりくるという意見が多くあった。山形菅公は、「サイドジップ」の部分にデザイン的な抵抗感があるようだった。また、真ん中の大きなロゴについて否定的な意見があった。

これらをもとに、検討部会として順位づけし、第1候補「クラロン」、第2候補「児島」、第3候補「山形菅公」として策定委員会に提案する。

(委員長)

今の提案について、まず最初に質問を受け付ける。

(委員)

ここで第1候補の業者を決めて、また検討部会で最終的に詳細を話し合うことになると思うが、例えば、第1候補になったクラロンのデザインがグリーンになるということもあるのか。今回、業者がクラロンと決定し、提案いただいた紺のものがグリーン系になった場合、この場で報告され、最終的に決定するような流れになるのか。

(委員長)

部会長からの報告の中にもあったが、事務局からの確認をお願いします。

(事務局)

今回のプレゼンテーションは自由提案であったので、見栄えと色見本も展示があった。最終的には、色も変更

する可能性がある。その部分については、作業部会や検討部会で話し合った上で、策定委員会に提案するようになる。

(委員長)

この場では策定委員会として業者を決定し、意見があれば業者に伝え、新たにデザインや色について検討するというのでよろしいか。

他に質問はないか。

(委員)

関連して、仮に今のような手順を進めるとしたとき、新たに見本が出てくるのか。子どもたちのアンケートの結果を見ると、児島のグリーンというデザインにインパクトがあったように感じた。展示見本と一緒に色見本があり、アンケート後にそれに気づいた子もいたようだ。これから1つに決まって、その後の見本があるかが気になる。

(事務局)

プレゼンテーションと同じような見本は難しいと考える。その色で、このようなジャージになるというような、既成のものであれば提供できると思うが、完成品としてもう1度作成をお願いするのは難しいと思う。

(委員)

詳細が決まり、策定委員会で最終的に承認されたら、子どもたちに実物を見せてあげたい。保護者の方に対しても同様である。12月頃に開催される予定の明倫学園の説明会の際には、実物はあるべきではないか。

(事務局)

萩野学園の時と同じように、最終的に決定したものは見本を展示することはできる。

(委員)

承知した。

(委員長)

他に質問はないか。

(委員)

ジャージの場合、緑がいいという方と、緑じゃない紺がいいという方の保護者の意見が両極にある。色については大変難しいと思うが、誰が決定するのか。

(委員長)

最終的に方向性を出すのは策定委員会である。まずはこの場で業者を決定し、方向性は皆さんの意見に基づいて委員会の中で決定していかなければならない。

他に質問はないか。

なければ、部会から、第1候補「クラロン」、第2候補「児島」、第3候補「山形菅公」という順位付けの提案があった。第1候補と第2候補の総得点は僅差であり、児童生徒は児島、保護者等はクラロンとなっている。

候補順位の意見はないか。

(教育長)

得点率が同じであるが、第1候補をクラロンにしたという理由は、総得点でクラロンが上回っているということか。

(事務局)

「アンケートの結果は参考にする」と要項に示していた。基準になっているのは、プレゼンテーションに参加していただいた方の得点やコメントであり、それを最重要視した。実質、プレゼンテーションの総得点の差は3点しかないが、この部分を加味した提案になっている。

(委員長)

他にいかがか。

(教育長)

資料に、「すそは全国的にストレートないし、セミストレートを鑑み」となっているが、これについても今後話し合いになっていくと思うが、実際はどちらが良いのか。現在の明倫中はどのようになっているか。

(委員)

明倫中は写真と同じように、すそが絞られているタイプである。子どもたちに抵抗はない。個人的にもこのままでよいと思う。ストレートだと、サイズの大きいものを購入したときにすそが地面についてすれてしまう。絞られていると、大きいサイズにしてもそのようなことはない。子どもたちのそれに対する不評の声は、これまでも聞こえてきたことはない。

(委員長)

他に意見はないか。

なければ、ジャージについては部会の提案通り、3点差ではあるが、保護者等の得点率を見ても5%、他の業者より高いようなので、クラロンを業者として決定してよろしいか。

(委員)

異議なし

(委員長)

業者についてはクラロンと決定する。

色についてはこの場で検討し方向性を策定委員会として示さなければならない。委員の意見を伺いたい。

(委員)

個人的な意見とすれば、OBとすれば、グリーンを基調としたジャージが好ましい。これまで卒業した子どもたちのことを考えても、途中で変えず、グリーンを基調とした形で検討していただければと思う。

(委員)

1つ確認であるが、萩野学園はクラロンを採用しているか。

(委員)

萩野学園もクラロンだったと思う。

(委員)

デザインは今回の提案のものと同じか。

(委員)

全く違う。色も、デザインも違う。

(委員)

個人的に聞いた限りは、子どもたちは緑色がいいという意見が多かった。今回の結果が僅差になったのも、児島のジャージが緑色だったからだと思われる。子どもたちの意見を聞いた限り、緑色をベースカラーにした方がいいと言っていたし、個人的にもそう思う。ただ、業者は自信をもって、この色とデザインで提案してきたのであれば、仮にクラロンでジャージの紺色の部分が緑色になったとすると、もしかしたら印象が変わってしまうのではないかという心配もある。

(委員)

わたしも母校として、緑色に愛着がある。ただ、今回のプレゼンテーションの結果を見て、クラロンがこのデザインだからこそ最終的に決定されたということがあるとすれば、色やデザインを変えることで違うものになるのではないかと心配される。明倫中は実際に緑のジャージを着ているので緑色の意見が多いかもしれないが、沼田小や北辰小は半々ではないかと思われる。実際の緑色を見ていないので、ここで決めるのは難しいと思う。

(委員)

担当として話を進めていく中で、部会として、色の部分をどこまで確認するのが難しかった。実際に、業者がこの紺色でプレゼンテーションをしている中で、色が全く違うものになるイメージはなかった。プレゼンテーションの意見を見ると、「グリーンベースでもよい」や「緑のラインを入れては」という意見もあれば、逆に「緑にこだわらなくても良いのでは」等の意見があるなど、色にこだわらない意見を吸い上げた時に、クラロンの色を参考しながら、緑をこのデザインとする選択肢は、個人的には想定していなかった。ただ、緑色をどこかに取り入れるとしたら、ラインなどの細かな部分で何かを取り入れる方法があるかなどの相談や調整が必要なのかと思っていた。この3つの業者のプレゼンテーションを見て、それに票を入れたという意味が薄れてしまうのではないか。その部分については、委員の意見を聞いて部会で検討していかなければいけないと思う。

(委員)

プレゼンテーションの時に、業者がこのような色ができるというイメージを資料の中に示していた。それを見て、緑にしたらこのようなイメージになるというのがあったと思う。個人的には、例えば各学校が集まって大会等が開かれる時に、ほとんどが紺色ベースになるように思う。そんな時に、新しい明倫学園がどのようになったのかを見られ、緑だったら明倫だと分かりやすい。

(委員)

個人的には緑がいい。ただ、緑になったときにどのようにデザインが変わってくるのかは心配である。業者が決まったら、緑色の見本を作ってもらうことはできないのか。物を見てみないと、想像では分かりにくい。

(委員)

以前の委員会でも、制服やジャージに緑を入れるという文言を要項からあえて削除し、自由性を持たせるということで進めてきた。それを踏まえて3社が提案して、児島が緑を押ししているのに、そんなに差が出ていないというのは、そこまで緑にこだわる必要がないということではないのか。3社が提案をして、クラロンと決定した後、それを覆すようなことはあり得ない。このデザインがいいから、ここに投票している。それを変えて業者をお願いするのは疑問がある。個人的には緑がいいが。

(委員)

迷うところではある。他の学校と一緒になったとき、明倫学園の違いを示すのであれば緑だと思う。ただ、このクラロンでデザインを緑にした時の実物を見てみたい。様々な意見はあるが、その実物を見ることで考え方が変わってくるかもしれない。個人的には緑がいい。

(委員)

第1候補がクラロンになったということで、このデザインを尊重すべきである。個人的には、クラロンのデザインで緑があったらいいと思っていた。コメントを見てみても、緑に変えてもクラロンがいいと点数をつけている人も多い。つまり、紺色のクラロンがいいという意見だけではなく、緑色も選べるということで選んでいる人もいる。紺色が緑色に変わったとしても、問題はないように思う。提案された紺色の物ありきというものではないと思う。自分は母校ではないが、他の学校が紺色のジャージが多いので、明倫らしさを出すということで緑がいい。卒業生にとっても、やっぱり明倫は緑という気持ち的なつながりもあっていいと思う。それらを総合して、緑の物も見たい。

(委員)

気になっているのはプロセス論の部分である。提案して、プレゼンテーションをして、結果が出たということで、基準が後出しになって緑色がいいとなったときに、今までの手続き上、説得力に欠けるのではないかという心配がある。それらも加味して慎重に考えていく必要がある。個人的には、プレゼンテーションは色を含めての提案だったと考えているので、緑色をベースにした時にまた印象が変わってくるのであれば、やはり見比べるという最終的な手続きが必要だと思う。

(委員)

個人的には紺色もいいと思うが、これまでの明倫を見ていると緑である。それが明倫のイメージとなっている。

(委員長)

業者についてはクラロンに決定し、色については緑色のものを見てみたいという意見があったので、業者に対してその部分をお願いし、見本を作成してほしいとお願いすることはできないか。それを踏まえ、今回の提案と緑色のものを見比べて、最終的に決定するというところでどうか。

(委員)

ジャージの色についての議論は以前からあったが、募集をするときも緑色をあえて外すということで進めてきた。その中で、また緑色という話が出てきている。色の部分については、委員の「思い」の部分だと感じる。今後、細かい部分については色のことを検討していくのではなく、いろいろな機能などを含めて、部会で詰めていかなければならない。今の段階で、緑色のジャージを作るということではなく、これからの話を進めていく中で、現物ではなくイラストでもいいのではないか。そこでイメージを持ちながら、部会で少しずつ詰めていき、ポイントのところで色の部分も提案していただく形で進めていく方がやりやすいのではないかと。そうでないと、業者が毎回、毎回、サンプルを作らなければならぬ、大変になるのではないかと。もちろん、業者が了承すれば問題はないが、これから部会としては細かい部分を調整していかなければならないので、ある程度業者に任せながら、色も含めたポイントの部分を部会で検討し、決定するという方向で進めていただきたいと思う。

(委員)

基本的には、デザインについて、立場上意見を言うことができない。以前のプレゼンテーションの中で、現物の見本と一緒に色見本もあった。それを子どもたちも実際見ている。ということは、ある程度できているのではないかと。

(委員)

あれは、色見本で、イラストだったと思う。

(委員長)

いろいろな意見はあるが、策定委員会としては、実物の物を見てみたいという思いは強い。ぜひ、事務局にはその部分について要望していただきたい。なお、クラロンで早急に色見本ができた場合は、来年度早々に策定委員会を開催することも考えられる。

ジャージについてはよろしいか。

(委員)

確認させていただいてよろしいか。

ジャージについては、策定委員会の方向性としては、業者は「クラロン」と決定する。色については、今回クラロンで提案した「紺」に「緑」を含めて、今後検討を進めていく。

このような形でよろしいか。

(委員長)

その通りである。

次にシューズについて、事務局より報告願う。

(事務局)

シューズについてはプレゼンテーションという形ではなく、選考会という形、ジャージのプレゼンテーションと同日に実施された。

選考結果については資料のとおりである。コメントについて、「ムーンスター」は現在、明倫中学校の外履きで利用している業者であることから「定番であり、安定感がある」、「外履きであれば全く問題はない」という意見があった。「ジェス山形」は現在、明倫中学校の内履きで利用している業者であるので、内履きとしての評価があった。また、「通気性」のよさ、「足幅が3段階で選べる」ことについても評価が高かった。

全体として、「外履きと内履きのメーカーが違ってよい」という意見が多数あった。

制服・ジャージ等と同様に、児童生徒、教職員、保護者、地域住民にもアンケートを実施した。アンケートの結果より、全体的には、3点から5点に集中し、低い評価の回答が少なかった。児童生徒のものについては、全項目で4点、5点が半数以上を占めていた。「ジェス山形」のデザインの評価の回答で、1点、2点の回答が他に比べて多かった。アンケートのコメントより、外履き、内履きについては、それぞれ現在明倫中学校で使用しているものがよいのではないかという意見が多く出されていた。

検討部会としては、外履き、内履きで1社の選定と考えていたが、選考会の結果等を総合的に判断し、外履きを「ムーンスター」、内履きを「ジェス山形」に分けてお願いしてはどうかという結論となった。

このような提案でいかがか。

(委員長)

質問や意見はないか。

(委員)

外履きは中学生からで、小学生は自由ということによろしいか。

(事務局)

シューズの着用学年については、内履きは、1年生から9年生全員である。外履きについては、制服着用学年の5年生から9年生となっている。これは、プレゼンテーションの要項を作成する際に策定委員会から承認いただいた。

(委員)

資料に2色示されているが、これは5、6年生と7～9年生という違いによろしいか。

(事務局)

これは、2色あるという提案である。

(委員長)

資料20頁に示されている、「外履き(7～9年)」は「外履き(5～9年)」の間違いか。

(事務局)

その通りである。訂正願いたい。

(委員)

内履きの種類も1～3年用、4～6年用、7～9年用とあるが、これは保護者の負担等も考えてデザインを共通にすることはできないか。

(事務局)

これは提案されたデザインなので、3年ごとに買い替えるという意味ではない。

(委員長)

他にいかがか。

意見はないようなので、シューズ選定についての部会の案は、選考会でも質問確認があったように、外履きと内履きで業者を分けることもあるということである。その提案に基づいて、またそれぞれの業者の特徴を踏まえて、外履き「ムーンスター」、内履き「ジェス山形」となった。

この選考会、部会での提案について意見はないか。

(委員)

特になし

(委員長)

選定委員会の決定として、外履き「ムーンスター」、内履き「ジェス山形」とする。

(委員)

異議なし

(委員長)

選考会でも話題になったが、学年による内履きのラインの色について、業者と一緒に検討していただきたい。

(3) 校歌の制作について

(事務局)

人選方針については資料にある3点を重要視してきた。それをもとに、最終的に検討部会に作詞を「近江正人氏」、作曲を「森正明氏」と提案し、協議を行ったうえで、承認をいただいた。事前に2名の方には連絡をし、内諾はいただいている。

検討をお願いします。

(委員長)

校歌の制作について、作詞依頼者を「近江正人氏」、作曲依頼者を「森正明氏」と提案があった。

何か質問あるか。

(委員)

校名を決める際も、校章を決める際も、児童生徒の提案を反映する機会を与えていただいた。人選について問題はないが、校歌の歌詞を決める手法として、子どもたちからキーワードやキーフレーズを集めて、子どもたちの持っているイメージを加味していただきたい。

(委員長)

今の意見について、部会の中ではそのような話が出ていないか。

(委員)

子どもたちという意見はなかったが、作詞者の略歴に、新庄市在住で新庄市に縁があるということで、3校の学校のことと子どもたちのことを理解してほしいという意見があった。作者の受け止め方はどうであるかについてはこれからのことなので、直接子どもたちからの言葉を拾うだとか、子どもたちに入れてほしい言葉をアンケートするなど、具体的なことについてはまだ話し合われていない。

(事務局)

萩野学園の校歌をお願いしたのも近江氏であった。その際は、直接的に意見を聞くといった場面はなかったが、萩野地区に出向いたり、地域を歩いたりしたかと思う。近江氏にお願いするとき、そのような点について話をしたいと思う。また、入れてほしいフレーズや意見などはあると思うので、この部分については検討部会で相談し、この場に報告する。

(委員)

子どもたちなりに、明倫という名前についての思いがあるようである。明倫学園に入る、入らないにかかわらず、思いはある。それをそのまま使ってほしいということではない。ぜひ、子どもたちの思いを汲んでほしい。

(委員長)

作詞家としてのポリシーもあると思うので、依頼することが決定した段階で、作詞の先生と相談する中で進めていただければと思う。

他にいかがか。

委員の意見がないので、校歌についてはこの2人をお願いします。

(4) その他

特になし

5 その他

《協議結果》

- ① 制服業者は「山形菅公」とする。ただし、細かな変更は、今後検討し、決定する。
- ② ジャージ業者は「クラロン」とする。ただし、色も含めた細かなポイントの修正は、今後検討し、決定する。
- ③ シューズの業者は、外履き「ムーンスター」、内履き「ジェス山形」とする。ただし、内履きのラインの色等は、今後検討し、決定する。
- ④ 校歌は、作詞を近江正人氏、作曲を森正明氏に制作を依頼する。